鹿児島県立鹿児島中央高等学校　～自主 好学 敬愛～

進路指導室だより　５月号

発行：進路指導部企画運営係〈令和元年5月31日〉

評点と評定

1　評点とは

評点は，中間考査と期末考査の得点と平常点をもとに算出します。学年成績は，前後期の評点の平均値です。各定期考査は学年成績の20%を占めています。

2　評定とは

学年末の成績は，科目ごとに５，４，３…の５段階評価です。１学年の数学を例にすると，「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」の３科目に成績がつきます。家庭基礎や探究基礎などは，１年の成績が全てです。

3　大学入試における評定平均値

評定を強調した理由を，下表を用いて説明します。

教科	科目	評定 第1学年	第2学年	第3学年
数学	数学Ⅰ	4		
	数学Ⅱ	4	5	
	数学Ⅲ		5	5
	数学A	5	4	
	数学B		4	5

3.	各教科の評定平均値	教科	国語	地理歴史	公民
		平均値	5.0	4.5	5.0

例　数学の評定平均値

(4＋4＋5＋5＋5＋4＋4＋5＋5)÷9＝ 4.6

（ 1学年 ）（ 2学年 ）（3学年）

ＡＯ入試や推薦入試では，全体の評定平均値が条件となる場合が多く，国公立大学では，4.3以上を求められることも少なくありません。そしてこの数字は「出願ＯＫ」の条件であり，合格ラインではありません。一般試験でも，二次の評価に「調査書」と書いてある場合は重要です。調査書が「100 点」の場合は，評定平均値を 20 倍して算出します。全科目の評定平均値が4.5の場合，4.5×20＝90点となります。

数学のように，評定が複数付く科目は苦手なままではいけません。１年次にしかない科目は，その学年で高評価を得なければなりません。そうしないと，調査書での高得点は期待できないのです。評定は評点をもとに算出されます。定期考査の成績が，大学入試にもつながっているのです。

学習室の使い方

効果的な学習をするための方法の一つ。休日は「学習室」を活用しましょう。部活動の前後に生じてしまう中途半端な時間や，公共交通機関を利用している場合の待ち時間を有効に使いましょう。ルールは以下の通り。

①使用時間は8:30～16:30。

②1，2年生は1階靴箱で上履きに履き替え。

③飲食禁止。

（ただし，12:00～13:00 は，視聴覚室で昼食可。）

④室内は無言。学び合いや質問等は部屋の外。

⑤当番の先生の指示に従うこと。

以上のルールを守りつつ，自分に役立つ学習をしよう。

中間考査に向けて

『蛍雪時代』５月号に，センター試験の得点率80%に向けた戦略が示されていました。内容は「年間計画」でしたが，約１週間後から始まる中間考査に向けて，参考になりそうな部分を紹介します。

１．計画

①学習量を絞り込む。

本当に必要か，実行できるかを考える。

②具体的な計画を立てる。

例：「いつ，どの教材を何ページまで」

２．実行

①進捗状況を管理する。

勉強した事柄を書き出して「見える化」する。

②計画を調整する。

実行してみて，量や時間を微調整する。

３．生活

①使える時間の把握。

何もしていない空白の時間がないか振り返る。

②集中できる環境作り。

整理整頓や使わない教材を片付けるなどの工夫。

中間考査の点数は，何度かある中の考査の一つではありません。左に示した「評点」の元になります。つまり，大学受験に必要な「評定」につながっているのです。自分に厳しく，精一杯の努力をし，納得のいく結果を残しましょう！

センター試験まであと２３２日。頑張れ３年生！

「圧倒的な基礎力」

１年４組担任　中堀浩貴

タイトルは，進路指導主任である山口先生の決まり文句です。私は，山口先生とともに５１期生（教育実習で来ている先生方です）・５４期生を送り出してきましたが，先生は事あるごとに「圧倒的な基礎力」を身につけよと話されていました。５７期生の皆さんは，入学しておよそ２ヶ月たちましたが，この言葉の意味を実感するのはまだ先のことかもしれません。まずは，「目標」を定めましょう。目標が定まった上での「圧倒的な基礎力」なのです。

○　目標が明確になれば『やる気』も必ず高まってくる！
○　『やる気』が高まれば，自分に何が必要か『考える』ようになる！
○　本気で『考える』ようになれば，少々つらくても『行動できる』ようになる！

学習やスポーツ，芸術など様々な分野で「基礎・基本」が大事ということはよく知っていますよね。「基礎・基本」が身についていないと，「応用・発展」ができません。建物も「基礎」しっかりしているからこそ，立っていられるのです。中央高校でしっかり「基礎・基本」を身につけてこそ，「大学入試」に対応できるのです。まずは，予習→授業→復習のサイクルをしっかり確立してください。日々の努力を重ねていくことで「圧倒的な基礎力」は身についていくものなのです。別に特別なことをする必要ありません。「宿題をしっかりやる」，「予習をしっかりやる」，「授業にしっかり取り組む」，「学習にしっかり時間をかける」など当たり前のことを当たり前にやるだけなのです。

もちろん，すぐに成果が出るものでもありません。確立した習慣を，しっかり「継続」していくことが大切です。特に国・数・英は劇的に成績が上昇することはありません。例えば，日本を代表する工業製品である自動車は，企画から開発，試作と何百種類にも及ぶテストを継続し，何年もかなりの時間をかけてやっと販売にこぎ着けるのです。ときには思うような結果が出ず落ち込んでしまうこともあるかもしれませんが，目標に向かって努力を重ねたことは決して無駄になることではありません。人生山あり谷ありです。最後まで諦めずに粘り強くやっていくことが目標達成への近道なのです。

最後に，皆さんは「進路の手引き」の合格体験記を読みましたか？ぜひ，よく読んでみてください。今後の参考になることがたくさん書いてあります。人によって様々かもしれませんが，共通するのは「努力」をし続けたということだと思います。まさに「圧倒的な基礎力」を身につけることにつながることです。それと，ともに励まし合う「仲間」の存在の大切さも書かれています。縁あって集った５７期生の仲間たちです。皆で「共励切磋」しながら高め合っていってほしいと思います。

「初心忘るべからず」

２年７組担任　牧之瀬　義広

日本の古典芸能「能」の大成者である世阿弥（ぜあみ）が残した，「初心忘るべからず」ということばがあります。とても有名なことばですが，皆さんは「初心忘るべからず」をどのように解釈しているでしょうか。多くは，「物事を始めたときの志を忘れないようにすることが大事である」と解釈しているのではないでしょうか。確かにその解釈も間違っていないかもしれませんが，実はこのことばにはもっと深い意味があるのです。世阿弥は自身の能芸論書「花鏡（かきょう）」のなかで，「しかれば当流に万能一徳の一句あり。 初心忘るべからず。この句，三ヶ条の口伝あり。是非の初心忘るべからず。時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。この三，よくよく口伝すべし」ということばを残しています。このことばの中から，「初心忘るべからず」ということばが抜粋されて現在に残されているのです。簡単に訳すと，「『初心』には三つの初心がある。ものを習い始めたときの『初心』，その時々の『初心』，老練の域に達したときの『初心』。それぞれの『初心』を忘れてはならない。」と言っているのです。

そもそも，ここで語られている初心とは何なのでしょうか。「初心」は「ものの習い始め」だけに存在するのではなく，物事を極めようとする過程の随所に存在する，いわば「『うまくいかない感じ，困り感』→『こうありたいと考える姿・状態』」のようなものだといえます。何事も，順風満帆に進むことは稀で，むしろ「うまくいかない，こうありたい」と感じることの方が多いのではないでしょうか（少なくとも私はそうです）。大事なのは，「今の自分に足りないもの」や「足せばもっとよくなるもの」を意識して，それを足していく努力を積み重ねることであり，むしろそれなしには技術の向上や人間的成長はありえないことも想像に難くありません。

今でこそ「ＰＤＣＡサイクル」といったことばがありますが，今から６００年近く昔の人物である世阿弥は，それを「万能一徳の一句」として弟子たちに伝えていたのです。今も昔も人間の成長の本質は変わらないのかもしれませんね。

さて，「高校２年生」がスタートして間もなく２ヶ月が過ぎようとしています。２年生に進級した時の皆さんの「初心」はどのようなものだったでしょうか。その時の志をどれだけ維持・実行できているでしょうか。また，２年生を２ヶ月過ごした現時点での「初心」はどうでしょうか。過去と今の自分自身を振り返り，今後の自分自身の行動の指針を立てて，それを実行する。人によってスタイルは異なるとは思いますが，自分をプラスの方向に導くこのルーティーンを，５６期生みんなが実行してもらいたいです。

「風姿花伝・花鏡」
世阿弥　小西甚一編訳（タチバナ教養文庫）

～気張いやんせ５６期生～　「あいさつ」美人

５月半ばのある日，今年の３月卒業した５４期生が大学が開示した入試結果を知らせに来てくれました。そこに書いてあった点数は面接が９７点（１００点満点）でした。私は，驚きませんでした。それより，やはり見る人には伝わるのだと改めて納得しました。その生徒は，しっかりと自分の目標に向けて努力していました。そして何よりいちばん印象に残っているのが，毎朝校門で私に「おはようございます」と言ったあとの微笑み。相手に安らぎを与える笑顔が毎日見られました。きっと苦しいときもあったと思いますが，他人を不快にさせない“「あいさつ」美人”でした。人は心の中が表情に表れます。笑顔が美しいのは，その人の生き様なのかもしれません。朝目覚めが悪くても，やる気が起こらなくても，スマイル。ずっとブスッとしていると，一日が暗くなってしまいます。

（文責　塘）

自分の人生を手段にしてはならない

３学年　福久　高文

「自分の人生を手段にしてはならない。」しかし人はえてして自分の人生を手段とします。何かのために生きてしまいます。たとえば皆さんは今受験生です。受験生というのはどういう人でしょうか。考えるまでもなく大学に合格するために勉強する人ですね。大学に合格するために勉強する人の目的は何でしょうか。それは当然大学に合格することです。そこで勉強は。手段ですね？合格さえすれば良いわけです。

では，人生というのは何でしょうか。どこかに人生というものが漬け物石のように鎮座しているのでしょうか。そんなはずはないですね。人生というものは日々生きられる現実そのものです。それ以外のどこにも人生というものはありません。人生は自分にとって最も大切なかけがえのないものですが，それは毎日の学校生活の中にしかないのです。

そうすると，毎日の授業を大学合格のための手段としか考えてない人は，自分のかけがえのない人生を「消費」しているに過ぎないことになります。「消費」というのは腹がいっぱいになりさえすれば，後はトイレの水に流しておしまいということです。授業を手段としてしか考えてない人の毎日はトイレの水に流れておしまいです。

それにしても毎日の受験勉強はきついですね。私もまだありありと覚えています。大学に合格したら思う存分好きなことをしてやろうと思って毎日の勉強に耐えていました。しかし歯を食いしばれば食いしばるほどきつさは増していきます。そんなとき私を救ったのは畏友と呼んでもよい親友でした。

彼は陸上の長距離走者でいかにもというストイックな男でした。勉強にもすこぶるストイックでインターハイの予選が終わるまで悠々と部活動を続けていました。部活動が終わると彼はまず苦手の英語の発音から始めました。私は心から驚きました。そんな時かと思いました。発音どころじゃないだろう。文法力も語彙力も何もないくせに何を悠長なことをと思ったのです。あるとき彼がまじめな顔で言いました。「おい，R と L は発音が違うのだぞ。」

しかし彼は発音がしっかりできればスペルを間違いにくいという「真理？」を発見し，その他，次々と独自の方法を会得して，トップに躍り出たのは夏休み明けの模擬試験でした。その後あれよあれよという間にあらゆる教科をマスターしていきました。そのころ彼が私に口癖のように言っていた言葉です。「砂地に水が吸い込まれるように知識が僕の脳に入ってくる。」「次の試験で何を聞かれるか楽しみで仕方がない。」

彼は今が楽しいのだと言っていました。新しい知識が自分のものになる。分からなかったものが分かるようになる。こんなおもしろいことがあるか。彼は多分大学に合格するための受験勉強という意識はなかったと思います。当時，試験が終わる度に職員室に行って，今度の問題にはやられました，この視点は思いつかなかった。と楽しそうに先生と語る彼の姿がありありと浮かびます。彼は結局大学の先生になってしまいました。

私は様々な学校を回ってきました。高校によって生徒の気質が違いますが，共通しているのは，志望校に合格する生徒は一様に受験勉強を楽しんでいるということです。つまり毎日の生活を目的にしている。点を取りに行かない。来た球を打つ。それが人間を作っていきます。彼らは利己的ではない。人のために行動できる。周りが見える。

受験勉強を何か必要悪のように言う人がいます。そう考えるとかつての私のようにきつくて仕方がないことになります。しかし私の畏友のように，そしてかつて出会った数多くのすばらしい生徒たちのように考えることができるなら，受験勉強をこの上なく面白い，そして自分を成長させる，意味あるものとすることができるのではないでしょうか。

人生を手段にしてはならない。一回限りの何より大事な人生を一瞬でも手段にするというのはもったいない話です。まして，人生で最も貴重な高校時代を手段にしてしまったら取り返しがつきません。今日から自分の大事な人生を「目的」にしてみませんか。